

# フードロスを活かそう

GA20230007

CM21-1327G 小山優衣

CM21-1406A 吳明香里

CM21-1298E 津波智穂

CM21-1194H 清水 樹

CM21-1168B 大川志帆

CM21-1153D 鶴巻 拓

# アジェンダ

- 1.現状の整理
- 2.アクションプランの概要
- 3.調達ルートと関係性
- 4.アクションプランが達成に寄与するSDGs
- 5.社会に及ぼし得る影響と対象
- 6.今後の展望
- 7.まとめ

# アクションプランの概要

規格外野菜を使用して

1人暮らしの大学生が丁度食べきれる

適切な量のミールキットをつくり

学食で週に3日、低価格で提供する

## ★現状

一人暮らしの大学生が1ヵ月で使う食費の平均は24,130円

→大学生が食費にかけることができる金額は、1日当たり約804円、  
1食当たり約268円

【図表1】1ヶ月の生活費<自宅生>

(円)

	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	22年との差	
											21年差	19年差
小遣い	15,370	15,200	15,040	14,270	13,550	12,780	13,480	10,700	10,370	10,980	610	▲ 2,500
奨学金	12,370	11,740	11,470	10,770	11,040	11,060	10,620	11,420	10,240	10,220	▲ 20	▲ 400
アルバイト	31,530	32,370	33,960	35,770	37,920	40,920	41,230	37,680	39,860	40,910	1,050	▲ 320
定職	220	220	240	70	190	240	300	370	490	110	▲ 380	▲ 190
その他	1,500	1,590	1,470	1,430	1,350	2,750	1,840	2,650	2,670	2,130	▲ 540	290
収入合計	60,990	61,120	62,190	62,310	64,070	67,750	67,480	62,820	63,630	64,350	720	▲ 3,130
食費	11,460	12,010	12,250	12,580	12,580	14,370	13,850	10,670	10,540	11,390	850	▲ 2,460
住居費	240	210	280	160	270	250	150	960	590	330	▲ 260	180
交通費	8,860	9,530	9,020	8,830	8,680	9,030	8,160	7,160	7,990	9,340	1,350	1,180
教養娯楽費	8,080	7,840	8,490	8,240	9,470	11,940	12,990	10,750	11,940	13,410	1,470	420
書籍費	1,740	1,670	1,680	1,450	1,340	1,540	1,620	1,740	1,680	1,520	▲ 160	▲ 100
勉学費	1,140	1,120	1,120	960	1,130	1,430	1,270	1,420	1,570	1,290	▲ 280	20
日常費	4,680	4,830	4,800	4,900	5,280	6,090	6,160	6,300	6,270	5,720	▲ 550	▲ 440
電話代	2,840	2,630	2,670	2,280	2,210	1,890	1,780	1,730	1,470	1,710	240	▲ 70
その他	2,460	1,800	2,410	3,180	2,770	2,640	3,220	1,790	2,070	1,920	▲ 150	▲ 1,300
貯金・繰越金	17,400	16,530	17,190	18,090	18,880	18,050	16,880	19,610	18,850	16,950	▲ 1,900	70
支出合計	58,890	58,180	59,890	60,690	62,590	67,200	66,080	62,130	62,970	63,580	610	▲ 2,500

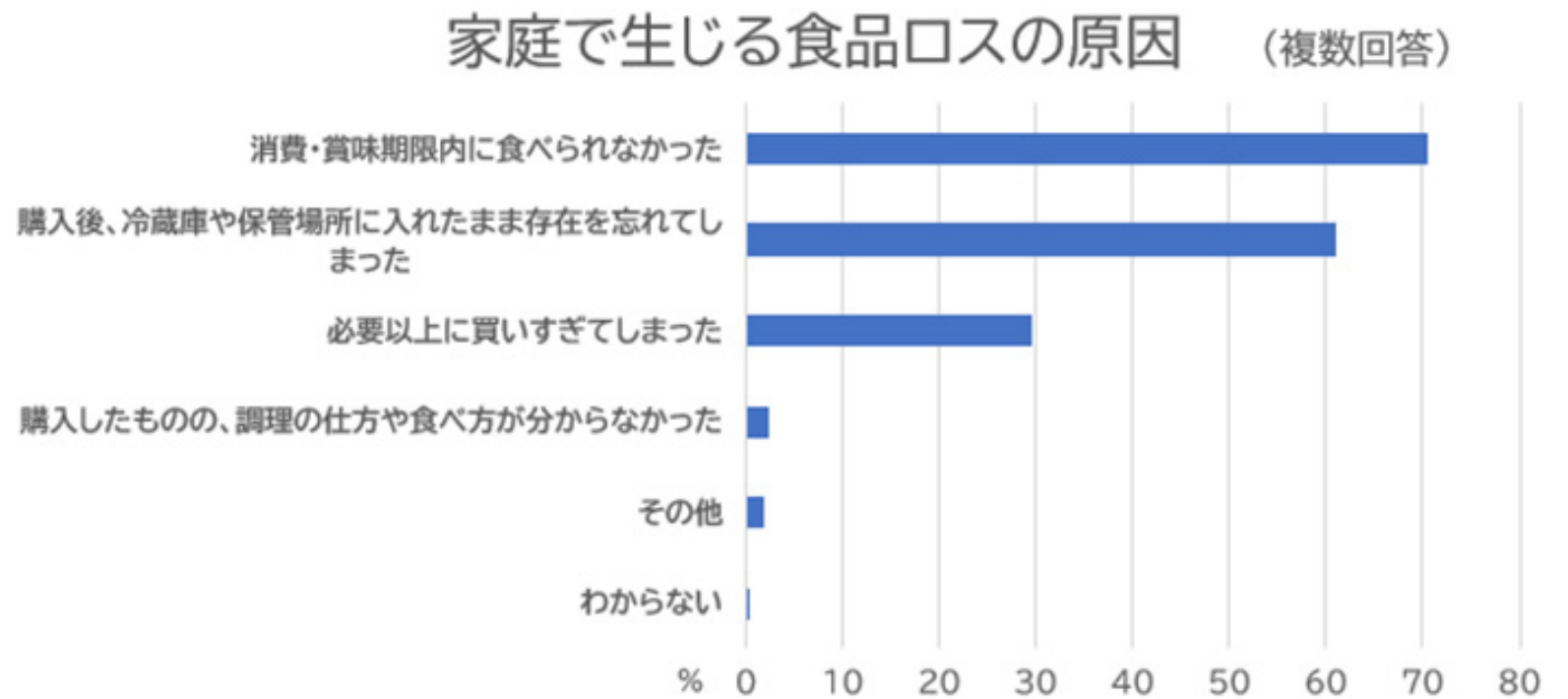
# 1.現状の整理

## ★アクションプランを構想するきっかけ

→1人暮らしの実体験から

- ・ 1人で食べ切ることができる個分けされた野菜は、まとめ売りされている野菜の1個当たりの値段よりも高くなっていることが多い
- ・ お得なまとめ売りされた食材を購入するが、1人では消費期限内に食べきれずに食材を腐らせる

- ・ 家庭で生じる食品ロスの原因について、7割以上の人々が「消費・賞味期限内に食べられなかった」と回答



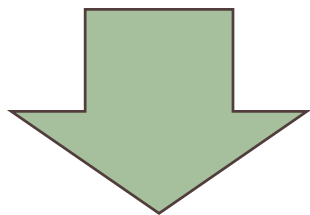
## ★改善したい課題

自分の必要な量を低価格で買うことができないためにフードロスが発生しているという現状

→**個分けで販売されている自分が欲しい食材を気軽に購入することができない**

## ★背景①

- フードロスの割合の中で「野菜類」が圧倒的に多い



規格外野菜に注目

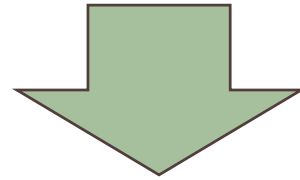




# ? 規格外野菜とは?



農家で生産された野菜のうち、曲がりすぎや傷などが原因で規格を満たさない野菜のこと



味が同じなら形や傷を気にしない消費者が規格外野菜を購入できれば、結果的にフードロス削減に貢献することができるのでは

## ★背景②

- 昨今の大学生が年々経済的に困窮してきているという実態

- 大学（昼間部）で49.6%と約半数の学生が奨学金を利用

- 「申請したが不採用」「希望するが申請しなかった」という、潜在的に奨学金を求める学生も一定数存在

# アクションプランの流れ

- ①大学が農家と契約し、廃棄されるはずの規格外野菜を直接購入
- ②野菜を大学の学食内で加工し、1人暮らしの大学生が食べきれる適切な量のミールキットを作る
- ③学食で週3日を目安に低価格で提供

# 「学食」で販売する理由

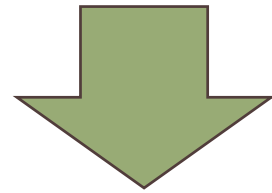
- 本学の学生が利用しやすい
- ミールキットを作る環境が整っている
- ミールキットや仕入れてきた規格外野菜が売れ残った場合は、翌日の学食で食材を使用できる  
→ミールキットそのもののフードロスを出すことがない



※ミールキットのイメージ図

# 「販売」する理由

ボランティアという形をとると、資金調達や食糧提供者を募集する点から、**取り組み自体が一過性のものになりやすい**

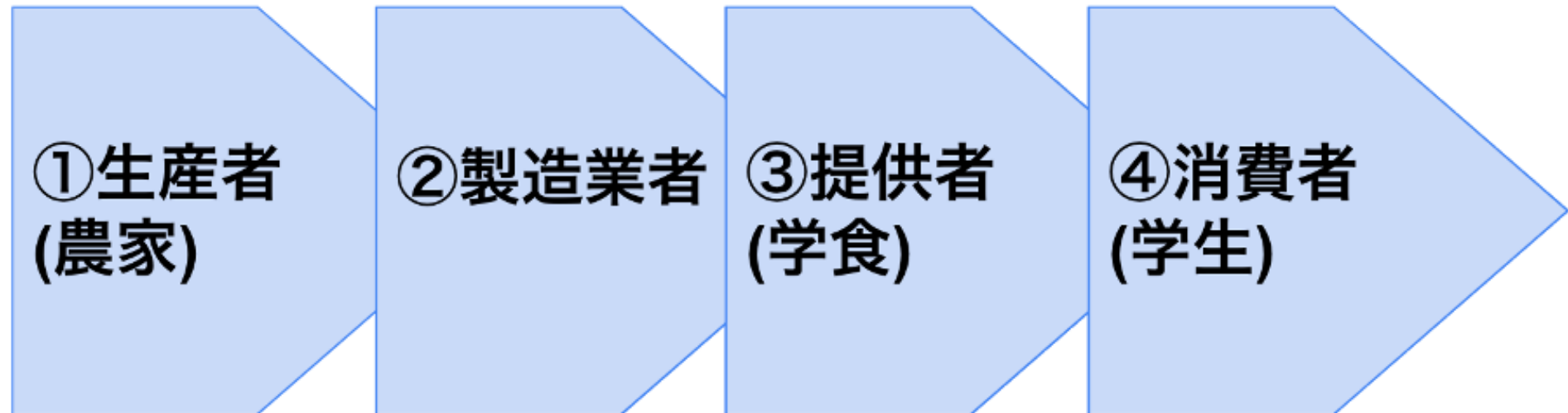


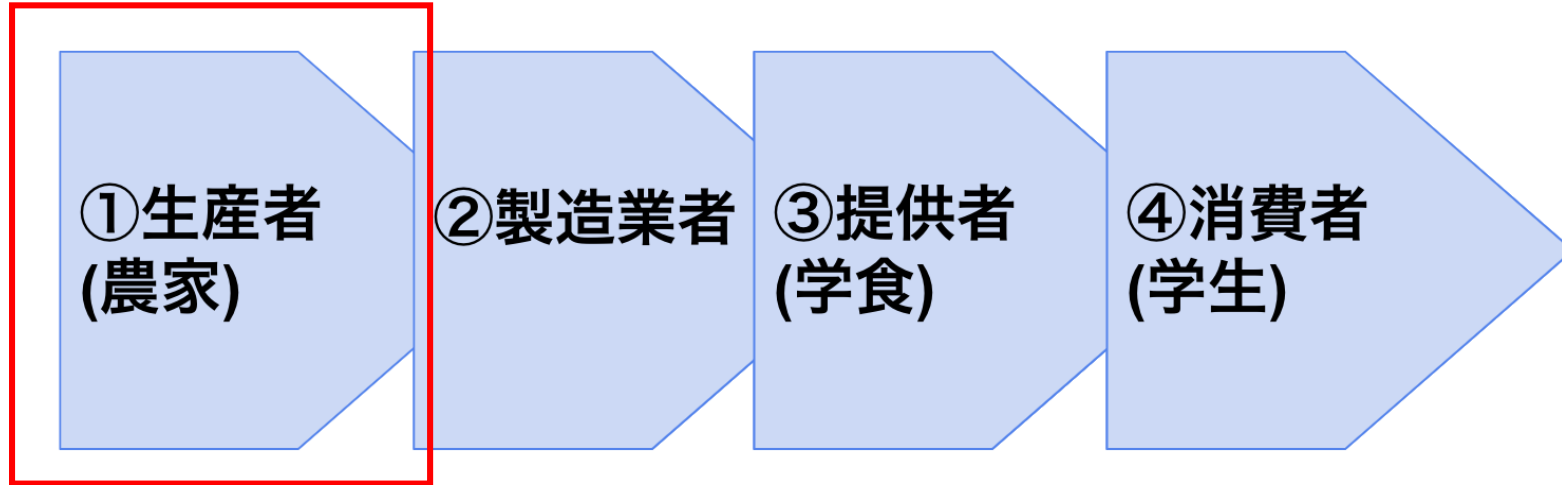
資金調達や仕入れを**安定的**に行うことができ、  
アクションプランを**継続的**に行うことができる

# SWOT分析

	強み	弱み
内部環境	<ul style="list-style-type: none"><li>・フードロスに貢献</li><li>・低価格</li><li>・使い切りサイズ</li><li>・消費期限内に使い切れる</li><li>・売れ残りを学食に使用できる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・大学内でしか販売していない</li><li>・規格外野菜への抵抗感</li></ul>
外部環境	<ul style="list-style-type: none"><li>・販売日数が多い</li><li>・本学生が利用しやすい</li><li>・作る環境が整っている</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・正規品の野菜の価格が下落</li><li>・天候等による規格外野菜の種類への偏り</li><li>・「食糧支援プロジェクト」</li><li>・ミールキットを販売している競合他者</li></ul>

### 3. 調達ルートと関係性

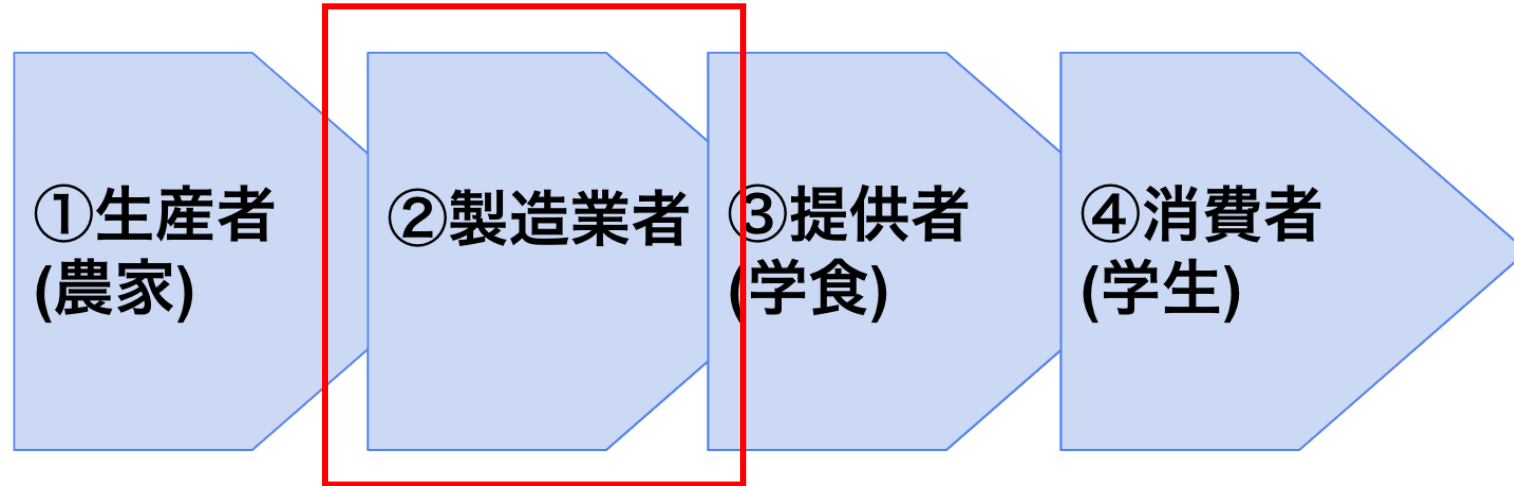




① 関係者：生産者

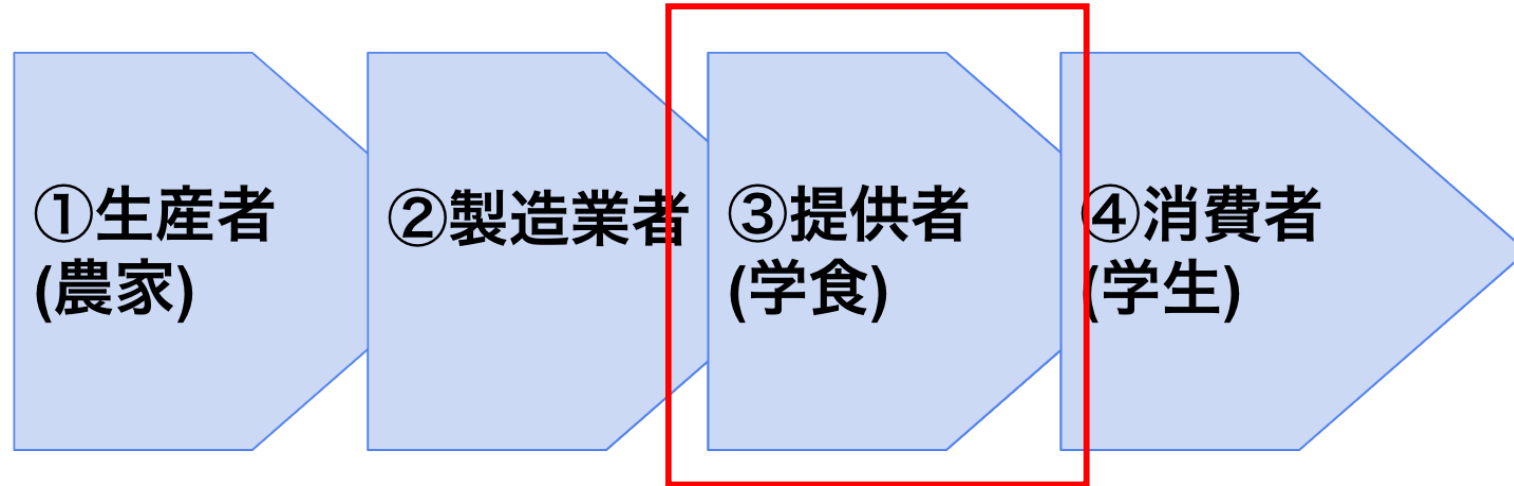
関係性(役割)：ミールキットに利用する野菜を生産する農家。  
ミールキットを販売する上での仕入れ先。





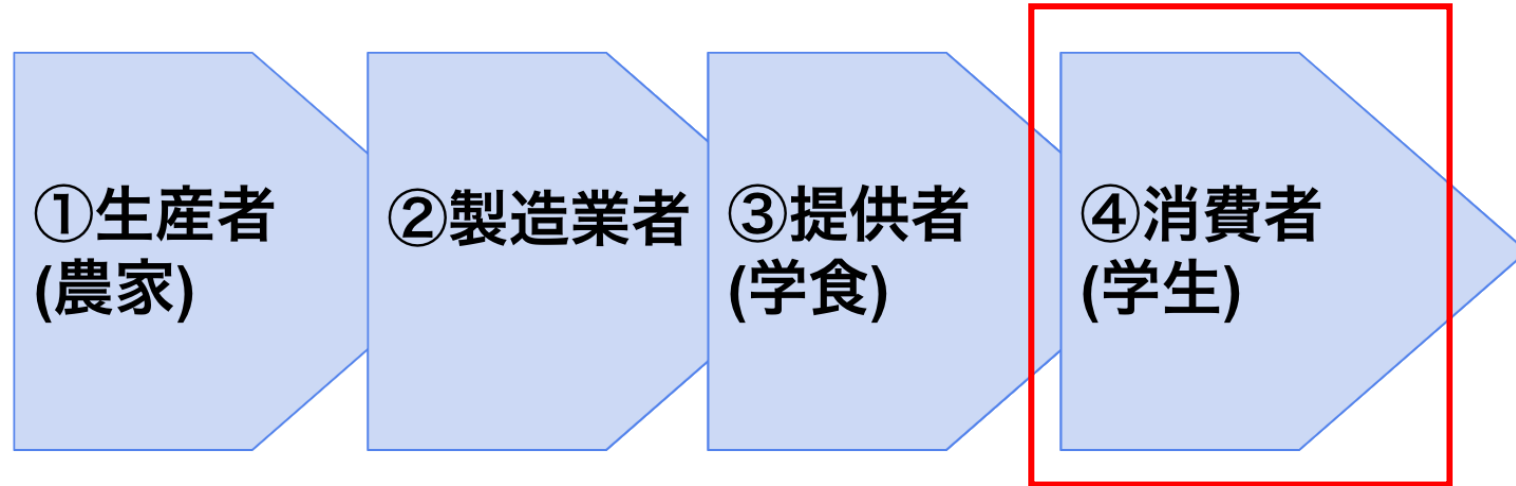
② 関係者：製造業者

関係性(役割)：ミールキットに使う食材の調理や製造を行う業者



③ 関係者：提供者(学食)

関係性(役割)：ミールキットの販売場所の提供をしてもらい、販売チャンネルを確立する存在。商品の認知度を高める存在。



④ 関係者：消費者

関係者(役割)：ミールキットを購入してもらう専修大学生。

# 4-1. アクションプランが達成に寄与するSDGs

## ① 貧困をなくそう

→あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

★選んだ理由：大学生の貧困を減らすため



## ⑫ つくる責任つかう責任

→持続可能な消費と生産のパターンを確保する

★選んだ理由：フードロスをクリアする点において汎用性が高いと考えたため





# フィードバックを踏まえて

## ⑬気候変動に具体的な対策を

→気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取るに終止符を打つ

★選んだ理由：フードロスを減らすことで、ゴミとしての焼却量を減らせるため温室効果ガスの発生抑制に繋げることができるから。



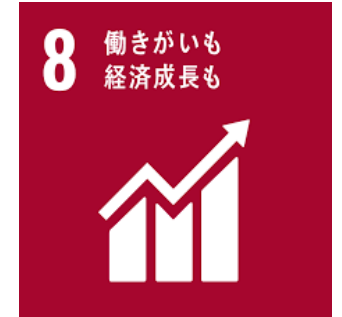
# フィードバックを踏まえて

## ⑰ パートナーシップで目標を達成しよう

→ 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、パートナーシップを活性化する

★ 選んだ理由：大学や農家、委託会社とのパートナーシップを通じた、持続可能なプロジェクトであるから。

## 4-2. 反対に作用する可能性があるSDGs



### ⑧働きがいも経済成長も

→すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する

★選んだ理由：規格外野菜が市場に出回るようになると正規品の野菜の価格が下落する可能性があると考えたため

# 5. 社会に及ぼし得る影響と対象

影響①：一人暮らし向け食材の販売促進

対象：日本社会

影響②：規格外野菜およびフードロスを使用した学食提供への第一歩

対象：学食

影響③：大学生の貧困解消

対象：大学生、大学、日本社会

影響④：規格外野菜というフードロス削減

対象：農家、日本社会



## 6. 今後の展望 - スモールアクション -

- ① 各農家にコンタクトを取り、ヒアリング調査  
→ 規格外野菜が採れる頻度や個数、食材の状態 → 配送方法・ルート決定
  
- ② ①の結果を基に、販売可能なミールキットの個数を決定。

③大学側と話し合いを行い、学食の調理場を使用する許可を取る。  
また、外部委託の業者に労働力を提供してもらえよう申請。

④販売場所や調理場等の確保を行った上で農家と実際に契約を結び、  
規格外野菜を仕入れる準備をする。

## 6. 今後の展望 - 持続可能性 -

- アクションプランに関わる関係者と信頼関係を築く

→ 初期段階である我々の代では、在校生に対して規格外野菜の廃棄率の現状やアクションプランについての理解度、認知度の向上を図る

→ 環境的・経済的な持続を可能とする土台作りを行う

- 後輩には、このアクションプランの進行の継続、そして他の農家との新たな関係の構築によりさらなるフードロスや貧困の削減を図ってもらおう
- 大学内の知名度の増加だけでなく、他大学への提案を行うまでに成長を遂げることができると、社会全体の持続可能なシステム構築に繋ぐことができる

## 7.まとめ

「フードロスを活かしつつフードロスを削減し、大学生の貧困解消に貢献する」という活動意義を日本全体に広め、大きな影響力を持つようになる、いずれは規格外野菜基準の見直しや新たな政策、海外の取り組みにも影響を及ぼすことが可能である。

また、環境や経済により良い影響を及ぼすこともできるのではないだろうかと考える。

# 参考文献

- ・全国大学生生活協同組合連合会 「第 58 回学生生活実態調査概要報告」

[https://www.univcoop.or.jp/press/life/pdf/pdf\\_report58.pdf](https://www.univcoop.or.jp/press/life/pdf/pdf_report58.pdf) [2023年3月1日、参照日2023年11月9日]

- ・千葉商科大学 「家庭で、飲食店で、フードロス削減のためにできること」

[https://www.cuc.ac.jp/om\\_miraitimes/column/u0h4tu0000002rw6.html](https://www.cuc.ac.jp/om_miraitimes/column/u0h4tu0000002rw6.html) [2023年3月、参照日2023年11月9日]

- ・暮らしと経済編集部 「廃棄される野菜を救う、新しいビジネスアイデア」

<https://www.otv.co.jp/okitiv/article/24352/> [2022/9/27、参照日2023年11月9日]

- ・日本学生支援機構 「令和2年度学生生活調査」

[https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei\\_chosa/2020.html](https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_chosa/2020.html) [2022年10月、参照日2023年11月9日]

- ・IDEAS FOR GOOD 「青果版フランス革命？大手スーパーカルフルが開く「規格外野菜のブラックマーケット」」

<https://ideasforgood.jp/2018/11/29/carrefour-blackmarket/> [2018年11月29日、参照日2023年11月9日]